
2019年度 第4回

郵博 特別切手コレクション展

南方占領地の第2回フィラテリー展

展示作品解説パンフレット



主催

郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

展示団体

南方占領地のフィラテリー展実行委員会

後援

無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

開催日時

2019年6月8日(土) 13:00-17:30

2018年6月9日(日) 10:00-17:30

会場：郵政博物館

日本郵趣協会 南方占領地切手研究会が選ぶ南方占領地切手ベスト50 (1)

太平洋戦争中に日本軍が占領した東南アジアを中心とするいわゆる南方地域で発行した切手を「南方占領地切手」と称しています。戦争の混乱の中、統一ルール無しで、各占領地域において戦前の現地切手に加刷したり、日本切手を持ち込んだりして暫定的な対応が場当たりの為されました。その後正規に印刷された正刷切手が発行されましたが、わずか3年半の期間に発行された切手の総数は4,500種近くに及びます。これら切手を対象に研究会の会員で人気投票をし、JPSの月刊誌「郵趣」5月号に「JPS南方占領地切手研究会が選ぶ南方占領地切手ベスト50」を発表しました。その切手の実物をここに展示します。



一番人気のフロレス暫定切手（蘭印海軍地区フロレス島で発行）が使用されたスンバ島・ワインガブ局からジャワ・スラバヤ宛封書

南方占領地切手 (3)

伊藤 英俊

私自身初めての出品となる、JAPEX2017『南方占領地正刷切手』をもとに、その後入手したマテリアルを加えながら、いわゆる“正刷”に限らず少し 枠を広げて再構成を行いました。関連の素材を使い、エッセイ、プルーフ類、バラエティや使用例などとともに展示します。日本切手とは違った、南方占領地独特のノスタルジックな図案とともに、主に単片にて展示していますので、カラーのカタログをご覧ください。



ジャワのデザイナーによる切手図案“郵便貯金通帳マン”

太平洋戦争 (3)

森川 博文

昭和16年真珠湾攻撃で始まりました太平洋戦争を、第1部 開戦から戦線拡大 第2部 敗線への道 第3部 新生日本の誕生 の3部に分け、太平洋戦争に 関連する切手やその使用例等を中心に展開してみました。開戦直前の昭和16年 11月29日に静岡のお茶屋さんが見本をアメリカへ送ったところ、開戦により 横浜より戻されました郵便や、開戦直前の12月6日、フィリピンへ向かっていた軍艦「足柄」から学徒動員で出兵した兵士が、京都大学の恩師宛に出した手紙、などを第1部に展示、第2部では、山本五十六の戦死直前の手紙や、特に使用の 少ない三角返信貼付の特別軍事葉書、敗戦により戻された5銭料金 のハガキなどが特に珍しいものと言えます。第3部では、敗戦で捕虜となった方々の手紙や日本切手に加刷して外国郵便として使用されたもの、沖縄の米軍占領下で日本切手に「平田」「富山」「宮良」の認印や「丸検印」等 を押し、切手として使用したものなどを展示し、最後に新生日本の誕生を意味する新憲法発布の切手で締めくくってみました。

南方占領地で使われた日本語の消印 (2)

比留間 晃則

第二次世界大戦中、日本が掲げた「大東亜共栄圏」(日本中心の、東アジア諸民族による共栄共存を謳った戦時中のスローガン)。その考えに基づいて日本は、資源確保のため太平洋戦争を引き起こし、東西 7000 キロ、南北 5000 キロにも及ぶアジアの広大な地域を占領するに至りました。

占領された地域でも、日本軍による郵便事業は展開され、日本の切手を持ち込み、また現地の切手をそのまま使用したり、それらに加刷したり、その地域オリジナルで新しい切手を発行したりし、3年ほどの短い期間に全地域で数千種もの切手が誕生しました。この展示では、占領地域の香港、ビルマ、マライ(現在のマレーシア)、オランダ領東インド(現在のインドネシア)フィリピンでそれぞれ使用された日本語の消印に焦点を当てました。



南方占領地フィリピンの切手 (2)

藤井 堂太 (構成：鏑木 顕)

おそらく 30 年以上前に、丹念に収集、整理されたと思われるコレクションを預かりました。実遞カバーはありませんが、切手と初日カバー等の郵趣使用例により、占領フィリピンの全ての切手を網羅し全体像が俯瞰できるよう抜粋し 2 フレーム作品に再構成しました。

フィリピン ミンダナオ ゲリラ切手 (1)

鏑木 顕

ごめんなさい。南方占領地のフィラテリー展なのに、これは南方占領地切手ではありません。日本占領下のフィリピン、ミンダナオ島で日本軍に対するゲリラ活動を展開する、残留米軍と現地人協力者によるゲリラ部隊が発行したと言われている謎の「切手」です。広い意味で南方占領地切手であると見做し、今回展示致しました。オーストラリアで印刷され、わずか20シート(500枚)が潜水艦によりミンダナオ島に運ばれ、1943年11月にゲリラ部隊に引き渡され、1945年8月までの2年弱、対日ゲリラのプロパガンダ活動の中で使用された・・・、この「切手」の謎多きドラマの数々は知的好奇心を掻き立ててくれます。1982年の報告で、切手326枚、カバー36通が残存しているとされていますが、この作品では未使用25枚(5x5)シートと、9通のカバー及び関連カバー1通を展示しました。残存36通と言われるカバーのうち9通が一堂に会する機会はおそらく史上初めてだと思いますので、是非お楽しみください。



日本切手の比島持込使用 (0.5)

鏑木 顕

占領フィリピンにおいて、日本切手は外国郵便(日本と日本占領地宛て)に限り使用できましたが、比島内の郵便局では日本切手は終戦まで発売されなかったため、全て、個人や企業、郵趣家等により持ち込まれたものです。第1次、第2次昭和切手のうち9種類の持込使用例が確認されていますが、本作品では、5厘朱印船、4銭東郷を除く昭和切手7種類の実通使用例に、郵趣使用例2通(記念切手、2銭乃木)を加えて展示します。

比島派遣「渡」部隊宣伝班発行の多色刷り軍事絵葉書（1.5） 鏑木 顕

1942年、占領直後、日本軍兵士に支給される多色刷り軍事郵便絵葉書10枚セットが発行されました。日本の従軍画家による10作品を比島内でカラー印刷したもので、日本軍に余裕があった占領初期の情景が少々微笑ましく描かれており、不思議な魅力を感じます。絵柄面に作品名と画家の名前があり、宛先面に渡宣伝班発行と検閲欄があるもの（Type I）と、無いもの（Type II）があり、本作品では10種類の絵柄それぞれにつき、両方のタイプを展示しています。「ナチブ山」のType IIについて宛先面の分割線が抜けているエラーを今回発見しましたので、合わせて展示しています。

英雄切手小型シート（1）

鏑木 顕

日本占領下のフィリピン共和国にてスペイン・アメリカに対する独立運動の闘士であるフィリピンの英雄3名の肖像を描いた切手3種を組み合わせた小型シートです。実はこの小型シートは1943年12月末に発行が予定され印刷まで完了していたのですが、何故か未発行に終わったのです。そして、改めてデザインを変えた小型シートが1944年2月9日に発行されました。未発行の小型シートはマニラ中央郵便局で保管されていましたが、1945年2月のマニラ市街戦で中央郵便局が廃墟となってしまいました。その廃墟から、米兵らが完全品約100枚と焼損品若干数を持ち出し、それらが現在残されているのです。本展示では残存2点とされる未発行小型シートの5センチボ切手漏れエラー、発行された小型シートの試刷ブルー、代表的なエラー、そして、初日使用実通カバー（現在残されているものは小型シートに記念印を押したものが殆どで、封筒に貼られた初日実通カバーは極めて希少）を含め、1フレーム作品にまとめました。

ビルマ孔雀加刷切手 (2)

谷口 詔彦

太平洋戦争の開始と共に、日本軍は英軍に対してビルマ侵攻作戦を開始しました。その一翼を担わせるため、特務機関の南機関によって日本軍の軍事教練を受けたアウン・サンなどのビルマ独立運動家を束ね、1941年(昭和16年)12月28日にビルマ独立義勇軍が結成されました。

義勇軍は日本軍政施行(1942年6月1日)以前の同年5月、南ビルマのイワラジ川周辺のデルタ地帯で、日本軍の多大な支援を受け治安維持委員会を発足、民生の安定と義勇軍の資金を得るために、郵便業務を開始いたしました。発行期間は、1942年5月から同年8月までのわずか4ヶ月間という短期間でした。

加刷された台切手は、当時流通していた英国のジョージ5世及び6世を主題としたビルマ自国切手でした。加刷は、英国国王の肖像を抹消する形で、ビルマの国鳥の孔雀が押捺されました。孔雀加刷切手の種類は、8種類です。自慢の1品はヘンザダ局V型6Psの田型。裏面の上部2枚にも加刷が施されています。

旧英領地域の南方占領地切手 (5)

土屋 理義

太平洋戦争中の1942年初めから1945年8月まで、旧英領地域で発行された南方占領地切手を、香港、ビルマ、アンダマン諸島、マライ、北ボルネオの順に、各地域を発行の時系列に5フレーム(80リーフ)で展示します。

ケラントアン州紋章切手の実郵便(封書適正料金8cの1枚貼り)KOTA BHARU(タイ占領下ケラントアン州)11.27.2603(1943年11月27日)からIPOH(マライ・ペラー州)經由マライ・ペナン宛て、コタバル局の消印も日本語表記となっている。



マライ統一ローマ字加刷・漢字加刷 (1)

三木 和也

第二次大戦中のマレー半島において、当初はマレーの各州で独自の加刷が行われました。その後、マレー半島で統一して使う目的で軍政部単枠加刷、ローマ字加刷、漢字加刷が発行されました。そのうちのローマ字加刷、漢字加刷に焦点を定めてリーフにまとめました。

ペラー州で使用されたパハン州の切手というような、台切手の発行された州と加刷切手を使用されている州とがバラバラになっている不思議な様子を実感していただければ幸いです。南方占領地切手に興味を持って8年無謀にも初めてリーフ作りに挑戦し展示します。コレクションは穴ぼこだらけで、先が長いですが、これを機会に更なるご指導・ご支援を期待しています。



南方占領地切手 オランダ領東インド (1)

横原 晃二

太平洋戦争時に、日本が占領したオランダ領東インド（現在のインドネシアの地域）において発行した切手は、2,600種類もあるといわれています。現地の切手を無加刷のまま使用したもの、それらの切手に様々な加刷を行って使用したものなどがあります。また、日本切手の持ち込み、現地印刷会社や日本での印刷による正刷切手の発行もあり、非常に複雑な収集対象となっています。全体としては、スマトラ、ジャワ、海軍担当地区の3地区に区分されています。

スマトラでの、オランダのウィルヘルミナ女王の肖像切手への派手なバツテン(?)加刷、サインや指輪によるローカル加刷、ジャワでの貯金切手、海軍担当地区での錨加刷、ロンボク太陽加刷、フロレス暫定切手など、興味が尽きない分野を1フレームの抜粋展示としました。

海軍担当地区のステーションナリー (3)

守川 環

現在編集集中の南方占領地カタログの海軍担当地区の元となるコレクション展示です。紙面では味わえない加刷、加刷色のバラエティや暫定はがきの印刷、紙質のバラエティを是非自らの目でご確認ください。



Indonesia 火山のある風景 (1)

田尾 美野留

インドネシアは火山列島と言われているが、特にジャワ島は、山と云えば火山と言っても良いくらい火山が多く、ジャワ正刷切手3.5centにメラピ山や5centにスメル山が採用されています。

INDONESIA の火山の切手、蘭印時代の火山の絵はがきと自分で撮影した写真を加えて「INDONESIA の火山」を紹介します。



南方占領地・蘭印における加刷切手（1）

小塩 就平

第2次世界大戦中、日本は広大な地域を占領し、占領下でいろいろな切手を発行しました。その中で蘭印地域の加刷切手は特に種類が膨大で、色・形・加刷方法・バラエティ多く、面白い分野です。収集は進みませんが、初めてリーフにまとめました。自慢の品はスマトラ・タンジョンラジャ地名加刷旧女王 25cent ペアです



マライ4C 正刷はがき（1）

菊地 恵実

昭和18年（1943年）マライ、スマトラ、ジャワ、北ボルネオの軍政部郵政局は、暫定加刷（切手/ハガキ）使用からの脱却のため、天長節（4月29日）より正刷発行を検討しました。本展示は、その際発行された日本占領地マライの正刷葉書を製造面（エッセイや版タイプ、紙質、シェード違いなど）と使用面（外国宛や特殊取扱い、現存一点となる葉書の額面部分切り抜きの使用例など）で構成したワンフレームコレクションです。



1942年～1945年の蘭印と日本占領期のジャワ (8)

増山 三郎

この作品は2017年Bandung展で大金銀賞88点を頂きましたが、南方占領地切手を伝統郵趣でまとめるのは難しく、もうこりごりです。しかしジャワだけで8フレームの展示を日本の皆様にも披露したく、再挑戦しました。Bandung展では5フレームで申し込みましたが、主催者から「過去に同じテーマで金銀賞を取得しているのに8フレームで出品すること」の連絡があり、「郵便史であれば可能、伝統郵趣では不可」で出品をあきらめましたが、コミッションナーからの励ましで、占領前のもので水増し出品した。

展示会場で日本からこられた国際切手展のルールに詳しい参観者から「出品ルールに適合していないので減点されるぞ」の忠告があったが「Indonesiaの友に披露できたので幸せ」の自己満足。やはり審査員からも「次回は表題を変更して出品のこと」と同じ指摘があり、今回表題を変えました。80senの最初の印刷シート、10cent、40centの目打方向の違い、JASCA未掲載の10centの小塔の白斑変種などをみてください。



Kolff印刷では最初のシートに作業日(昭和19年11月壱日)を記し上司に報告した。占領期いろいろな正刷切手が印刷されたが、現存するのはこれだけです。

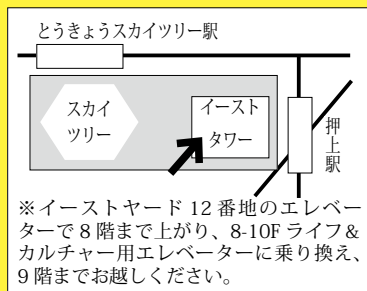
郵博 特別切手コレクション展

1902年(明治35年)に開館した「郵便博物館」に
その起源を遡る「郵政博物館」で開催される特別展です

2019年度に開催予定の特別切手コレクション展一覧

開催期間	特別展名
4/19-21	前島密没後 100 年記念展 郵便の父・前島密翁の遺徳を偲び、関連郵趣品や博物館秘蔵の逸品を公開
4/27-5/6	改元記念・皇室関係フィラテリー展 平成の終焉と新元号への移行という節目に臨み、皇室関係の郵趣品を一堂に展示
5/18-19	郵便制度史展 2019 ポスタル・ヒストリーのメイン・ストリームを織りなすコレクションの数々
6/8-9	南方占領地の第2回フィラテリー展 第二次世界大戦中に日本が南方占領地で発行した切手のコレクション
10/5-6	ステーションナリー展 わが国における「ステーションナリー」の最高峰コレクションが揃い踏み
10/12-13	第7回ヨーロッパ切手展 今年のテーマは「英国・英領」。国内外切手コレクターの力作が並ぶ。
10/19-20	製造面勉強会ワークショップ展 従来の製造面勉強会を展示中心のワークショップへと進化させた新形式の取り組み
2020年 2/1-2	第3回いずみ展 わが国郵趣グループのトップ・ランナーの実力がここに明かされる

特別切手コレクション展の開催時間は原則として午前10時～午後5時半ですが、初日だけ12時開始になる事が多いので、ホームページでご確認の上、お越しく下さい。



郵政博物館への行き方

所在地 東京スカイツリータウン・ソラマチ9階
※イーストヤード12番地のエレベーターで8階まで上がり、8-10Fライフ&カルチャー用エレベーターに乗り換え、9階までお越しく下さい。

最寄駅 押上駅(東京メトロ半蔵門線、都営浅草線、東武スカイツリーライン、京成押上線)、とうきょうスカイツリー駅(東武スカイツリーライン)両駅から直結。

共催 郵政博物館、特定非営利活動法人郵趣振興協会

<http://kitte.com>